

プログラム

特別講演 1 7月9日(日) 10:30~11:30 第1会場

座長:佐藤 純彦(医療法人社団 クレド さとうクリニック)

『免疫抑制宿主と COVID-19 との戦い』30
猪狩 英俊(千葉大学 医学部 附属病院 感染制御部)

特別講演 2 7月9日(日) 12:50~13:50 第2会場

座長:瀧之上昌平(日高病院 腎臓外科)

『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の検証—なぜ再燃、再発は恐ろしいのか—』31
高橋 公太(新潟大学名誉教授/高橋記念医学研究所所長)

シンポジウム 1 『慢性維持透析患者の救急・集中治療における諸問題』

7月8日(土) 13:00~14:30 第1会場

座長:八木澤 隆(JCHO うつのみや病院)

大網 毅彦(千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学)

札幌市の慢性維持透析患者の救急治療に関する調査32
熱田 義顕(札幌北榆病院 血管外科)

大阪府における透析患者の救急集中治療の現状と問題点32
長沼 俊秀(大阪公立大学大学院 医学研究科 泌尿器病態学)

山梨大学における透析患者の救急集中治療の実態33
後藤 順子(山梨大学医学部 救急集中治療医学講座)

東京都における COVID-19 患者への対応~酸素ステーションでの透析医療33
松岡 友実(日本大学医学部腎臓高血圧内分泌内科)

千葉大学における透析患者の診療体制の利点と限界34
服部 憲幸(千葉大学医学部附属病院 人工臓器部/千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学)

【企画のねらい】

慢性維持透析患者は血液浄化法という特殊治療を要し、様々なリスク因子を抱える特異な患者群であり、診療にはさまざまな制約が日常的に存在する。救急対応やICUでの治療が必要となった場合には、それらの問題がより close up され、透析患者の受け皿は通常よりもさらに減少することになる。生命の危機に瀕した透析患者にとって適切な救急医療や集中治療を受けられるか否かは死活問題であるが、救急・集中治療における問題点は地域の医療事情や病院の規模によって大きく異なり、この問題の解決策は地域に委ねられてきた。本セッションでは慢性維持透析患者の救急・集中治療における問題点について、さまざまな背景をもつ演者から講演いただき、解決の糸口を見出したい。

シンポジウム 2 『包括的高度慢性虚血患者の感染症』 7月8日(土) 14:40~16:10 第1会場

座長:花岡 英二(JCHO 千葉病院 整形外科)
小口 健一(望星会 望星病院)

慢性感染創傷に対する CLAP (Continuous Local Antibiotics Perfusion) を使用した治療戦略	35
緒方 英之(千葉大学 医学部 形成外科)	
重症感染症を併発した CLTI 患者の麻酔管理	35
沼澤 理絵(札幌北榆病院 麻酔科)	
重症感染症を合併した CLTI 患者への感染への対峙	36
嶋崎 鉄兵(杏林大学医学部 総合医療学教室 感染症科)	
重症感染症を併発した CLTI 患者に対する救肢へのアプローチ	36
富村奈津子(公益社団法人鹿児島共済会南風病院 整形外科)	
重症感染症を併発した CLTI 患者へのアプローチ	37
小島 俊輔(東京ベイ・浦安市川医療センター)	

【企画のねらい】

包括的高度慢性虚血患者は、多かれ少なかれ、今回のテーマとなる感染症との戦いとなります。その中で、ことなった立場からの、重症感染症への対応を論じて、今後の感染症診療の一助となることを期待します。

シンポジウム 3 『バスキュラーアクセス感染に対する治療戦略』

7月8日(土) 17:20~18:50 第1会場

座長:室谷 典義(三橋病院 バスキュラーアクセスセンター)
佐藤 暢(桃仁会病院 バスキュラーアクセスセンター)

クリニックにおけるシャント感染治療—Do more with less—	38
野島 武久(のじまバスキュラーアクセスクリニック)	
人工血管内シャント感染の外科治療	38
後藤 順一(社会医療法人北楡会 札幌北楡病院 外科)	
アクセス内科医のシャント感染への対応	39
神應 太郎(神應透析クリニック)	
カフ型カテーテル感染に対する治療戦略	39
野口 智永(吉祥寺あさひ病院 バスキュラーアクセスセンター)	

バスキュラーアクセス感染により敗血症性肺塞栓症をきたした症例 ……………40
白鳥 享(地域医療機能推進機構 (JCHO) 千葉病院 透析科)

【企画のねらい】

恐らく VA 治療に携わる人間の多くが遭遇したくないケースが VA 感染だと思います。各種の VA 感染に対して、第一人者の先生方はどのような治療戦略をもって治療にあたっているのかをお話しいただきます。症例の状況によっての違いや、治療する施設規模によっても戦略が変わると思いますので、具体的な症例を交えながら余すところなく安全な治療法を教えていただきたいです。

シンポジウム 4 『Vascular Access Evaluation Meeting : VAEM～芳しくない結果となった症例を振り返る～』

7月8日(土) 17:20～18:50 第2会場

座長: 笹川 成(横浜第一病院 バスキュラーアクセス科)
土田 健司(土田透析アクセスクリニック 透析血管外科)

VAIVT 血管損傷時の外科的介入判断の遅れ ……………41
本宮 康樹(医療法人翠悠会 翠悠会診療所)

シャント閉塞に対する人工血管再建をおこなったが、盗血症候群となり、再建を断念した症例 ……………41
谷口 哲(弘前中央病院 外科)

側々吻合による静脈高血圧症の治療に難渋した一例 ……………42
山下 洋(北上済生会病院 血管外科)

ステントグラフト重複留置後に血栓除去用カテーテルを使用し、ステントグラフトマイグレーションを認めた1例 ……………42
二瓶 大(済生会神奈川県病院 腎臓外科)

【企画のねらい】

Vascular Access Evaluation Meeting (VAEM) は、VA 症例に対する反省を目的とし、芳しくない結果となった症例を掘り下げ皆で共有することを意図しています。

シンポジウム 5 『腎不全患者における感染症～各科の立場から～』

7月9日(日) 8:30～10:30 第1会場

座長: 上條 祐司(信州大学 腎臓内科)
佐藤 純彦(医療法人社団 クレドさとうクリニック)

腎不全患者の易感染性と感染症予防対策 ……………43
橋本 幸始(信州大学医学部附属病院 腎臓内科)

腎不全患者における外科的感染症 ……………43
安永 親生(済生会八幡総合病院腎センター)

尿路感染症—透析から腎移植まで—	44
広瀬 貴行(北海道大学病院 泌尿器科)	
腎不全患者における脊椎感染症	44
上原 将志(信州大学医学部附属病院整形外科)	
小児腎不全患者における感染症	45
服部 元史(東京女子医科大学腎臓小児科)	
コメンテーター	
高橋 公太(新潟大学名誉教授/高橋記念医学研究所)	

【企画のねらい】

腎不全患者は易感染性があり、死因としても感染症は上位にある。各診療科の立場から腎不全患者における感染症の特徴や特殊性についてご提示頂き、有効な感染予防対策や治療法について、診療科の垣根を超えて共有することで腎不全患者の予後向上を図ることを目的とする。

シンポジウム 6 『CLTI 患者に対する多職種連携によるチーム医療を考える』

7月9日(日) 12:50~14:20 第1会場

座長:土屋 邦喜(JCHO九州病院 整形外科)
北岡 斎(玄々堂君津病院 血管外科)

透析施設としてのフットケアチームの取り組み～大切断ゼロを目指して～	46
北岡 斎(玄々堂君津病院)	
CLTI 患者に対する多職種連携による臨床工学の役割を考える	46
川上 崇志(新都市医療研究会「君津」会 総合腎臓病センター/玄々堂君津病院 臨床工学科)	
レオカーナが CLTI の健康の女神になるように～足病チーム連携による安全安心な治療提供をめざして～	47
西山 育美(社会医療法人愛仁会 井上病院 透析室)	
レオカーナが CLTI の健康の女神になるように～足病チーム連携による安全安心な治療提供を目指して～理学療法士としての立場として	47
榎 聡子(IMS (イムス) グループ 春日部中央総合病院 リハビリテーション科)	
血管診療技師として CLTI にどのように関わるか	48
佐藤 洋(医療法人社団 医聖会 学研都市病院 検査科)	

CLTI 患者に対するチーム医療—当院における管理栄養士の関わり— ……………48

丸山 陽子(信州大学医学部附属病院)

【企画のねらい】

CLTI(包括的高度慢性下肢虚血)患者に対し多職種連携によるチーム医療が重要であるが、本シンポジウムでは医師・看護師・臨床工学技士・臨床検査技師・理学療法士・管理栄養士の先生方からご講演いただき、多角的・包括的な視点から CLTI 診療について考えたい。今後の診療の一助となれば幸いです。

シンポジウム 7 『腎移植と感染症』

7月9日(日) 8:30~10:30 第2会場

座長:齋藤 和英(新潟大学大学院 医歯学総合研究科腎泌尿器病態学分野)
渡井 至彦(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 移植外科)

腎移植後感染症—概説— ……………49

渡井 至彦(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 移植外科)

COVID-19 感染症～当院の症例をふりかえって～ ……………49

池田 正博(新潟大学大学院 医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野)

腎移植患者の潜在性結核感染症 ……………50

小山 一郎(板橋中央総合病院 臓器移植センター)

腎移植患者におけるウイルス感染症の古今～CMV 感染症と COVID-19～ ……………50

中村 道郎(東海大学医学部移植外科学)

当センターにおける腎移植後 COVID-19 感染症と BK ウイルス感染症の現状 ……………51

岩本 整(東京医科大学八王子医療センター 腎臓外科)

コメンテーター

中島 一郎(板橋中央総合病院 移植外科)

【企画のねらい】

腎移植における感染症は、拒絶反応と共に非常に重要なテーマである。今回、多くの腎移植症例を有する施設の先生方に新型コロナウイルス感染症を含む移植後感染症についてご講演いただき、腎移植のさらなる成績向上に寄与することを目的とする。

※シンポジウム 7 「腎移植と感染症」の受講者は日本臨床腎移植学会の腎移植認定医の更新に必要な 1 単位が取得できます。

ランチョンセミナー 1

7月8日(土) 11:50~12:50 第1会場

座長:緒方 英之(千葉大学 医学部 形成外科)

『透析患者の足病変に我々はどのように向き合うべきか』 ……………52

富村奈津子(公益社団法人鹿児島共済会南風病院 整形外科)

共催:日機装株式会社

ランチョンセミナー 2 7月8日(土) 11:50~12:50 第2会場

座長:久木田和丘(札幌北楡病院)
佐藤 暢(特定医療法人 桃仁会病院)

『セミコン』vs『ノンコン』

『ノンコンバルーン選択』53
本宮 康樹(医療法人翠悠会 翠悠会診療所)

『セミコンバルーン選択』54
井上 浩伸(医療法人 永生会 甲府昭和腎クリニック)

共催:株式会社カネカメディックス

ランチョンセミナー 3 7月9日(日) 11:40~12:40 第1会場

座長:川西 秀樹(医療法人あかね会 土谷総合病院)

『透析患者の心血管合併症対策 up-to-date~腎性貧血も含めて~』55
阿部 雅紀(日本大学 腎臓高血圧内分泌内科)

共催:協和キリン株式会社

スポンサードセミナー 1 7月8日(土) 16:20~17:20 第1会場

座長:武本 佳昭(大阪公立大学大学院医学研究科 泌尿器病態学)

臨床で求められる非カフ型カテーテルとは—医師と臨床工学技士の立場から—

『短期型(非カフ型)留置用カテーテルを上手に使う』56
服部 憲幸(千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学/千葉大学医学部附属病院 人工腎臓部)

『臨床で求められる非カフ型カテーテルの性能と特徴を考える』57
塚本 功(埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部)

共催:ニプロ株式会社

スポンサーセミナー 2 7月8日(土) 16:20~17:20 第2会場

新しいVAIVTの潮流

座長:室谷 典義(三橋病院 バスキュラーアクセスセンター)

『エコー下VAIVTと拡張用バルーン選択に関するホンネの話』58

大崎 慎一(新都市医療研究会「君津」会 総合腎臓病センター/玄々堂じんクリニック/玄々堂君津病院)

共催:ポストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

座長:室谷 典義(三橋病院 バスキュラーアクセスセンター)

『ゴア® バイアバーン® スtentグラフトの使用方法~基礎から応用まで~』59

野口 智永(吉祥寺あさひ病院)

共催:日本ゴア合同会社

スポンサーセミナー 3 7月9日(日) 10:30~11:30 第2会場

座長:水口 潤(川島会)

透析患者の血管石灰化を征する

『透析患者の血管石灰化進展抑制を目的とした管理』60

橋本 幸始(信州大学医学部附属病院 腎臓内科)

『高齢透析患者におけるVA管理』61

廣谷紗千子(蒼紫会 森下記念病院 透析・血管外科/腎センター)

共催:キッセイ薬品工業株式会社